

## 運転免許非保有者の交通規則・交通マナーの知識量に関する基礎的研究 —高専生を事例に—

呉工業高等専門学校専攻科 学生会員 ○西岡 恵里奈  
 呉工業高等専門学校 正会員 山岡 俊一  
 呉工業高等専門学校 非会員 佐賀野 健  
 岐阜工業高等専門学校 正会員 坂本 淳  
 豊田工業高等専門学校 正会員 野田 宏治

### 1. はじめに

我が国の交通事故件数および負傷者数は減少傾向にあるものの、その数は依然多く、死者数も5年連続4000人台となっている。そのため、今後も様々な交通安全対策を実施すべきであるが、従来の交通安全対策は、自動車側を対象にしたものが一般的であった。しかし、交通事故を防ぐためには、歩行者や自転車利用者側にも違反行為や危険行為をさせないことが重要といえる。特に運転免許非保有者は交通規則をしっかり学ぶ機会がないことから、十分な知識を持たずに公道を通行している可能性が高い。実際に、自転車が関係する交通事故死傷者のうち64.0%(平成25年)、歩行者では31.2%(平成25年)が何らかの違反をしている。

そこで本研究では、運転免許非保有者の交通規則に関する知識量を定量化し、交通規則・交通マナーに対する意識や日頃の行動の実態と問題点を明らかにすることを目的とする。

### 2. アンケート調査

アンケート調査は、2015年1月14日～28日にかけて実施した。調査対象は、A 工業高等専門学校の環境都市工学科1～5年生・建築学科1～3年生・建設工学専攻1・2年生とし、各教室で回答してもらい、直接回収した。合計回収部数は312部で、うち運転免許非保有者は263名であった。アンケート調査の質問項目と内容を表-1に示す。

### 3. アンケート調査データの集計結果

ここでは、運転免許非保有者のみのデータを用いた集計結果を示す。

### 3.1 交通規則の知識量

知識量については、交通規則に関する正誤問題を作成し、正しいと思うものに○をつけてもらい、正答率を求めた。その結果を表-2に示す。歩行者専用道路を意味する標識についての問題が正答率9.6%と最も低く、他にも標識に関する問題の正答率は低い傾向にある。これらの知識は運転免許講習などの特別な教育を受けていなければ得ることが難しいことが分かる。

表-1 アンケート調査の項目と内容

調査項目	調査内容
個人属性	性別・年齢・外出頻度・運転免許保有状況・自動車保有状況・運転頻度・自転車利用頻度・事故経験・交通安全教育の受講経験
交通規則	自転車乗用中・歩行中
通行中の行動規則に対する意識	自転車乗用中・歩行中
総合的な評価	自転車乗用中・歩行中

表-2 交通規則正答率

内容	正答率(%)	回答数
標識 歩行者専用道路	9.6	260
傘差し運転	33.6	262
標識 進入禁止	38.9	262
TSマーク	43.9	262
標識 車両通行止め	53.4	262
右側通行	54.6	260
高齢者・身体障害者の誘導	60.8	260
手荷物運転	62.6	262
後方安全確認	73.7	262
標識 スクールゾーン	75.4	260
普通自転車通行部分	75.8	260
標識 徐行	78.6	262
矢印信号	79.4	262
標識 一時停止	79.8	262
二人乗り	80.9	262
飲酒運転	80.9	262
路側帯通行	82.3	260
横断歩道	84.2	260
その他	85%以上	

キーワード：交通規則・マナー、運転免許非保有者、交通事故、交通安全教育、意識調査分析  
 連絡先（〒737-8506 広島県呉市阿賀南2-2-11 TEL&FAX：0823-73-8482）

3.2 交通規則・危険行為に対する意識

自転車に関する規則の順守意識を表-3に示す。自転車横断帯や車道側通行などの通行区分に関する規則については「必ず守るべき」と回答した人が40%台と少なく、遵守意識が低い傾向にある。このような意識を改善するためには、これらの行動が多く事故につながっている現状を知らせることが重要であると考えられる。

歩行中の交通規則および危険行為に対する意識を表-4に示す。イヤホンや携帯電話の使用(通話・メール等)、駐車車両の直前後を通行について「守らなくてもよい」と答えた割合が10%以上となっており、他の項目と比べて高く、これらの行為が危険であるという認識が低いことがわかる。

3.3 日頃の行動

自転車乗用中の日頃の行動についての結果を表-5に示す。通行区分や信号、一時停止など14項目中11項目において「いつも守っている」と回答した割合が50%以下であった。しかしこれらの行為は年間2000件以上の事故につながっており、いつも守っている人が少ないことは、非常に危険である。

歩行中の日頃の行動についての結果を表-6に示す。歩行中にイヤホンや携帯電話の使用を「よくしてしまう」と回答した割合は、自転車乗用中「ほとんど守らない」と回答した割合と比べて10倍ほど高く、歩行中は危険意識が低いことが分かる。また、車が止まってくれと思って通行を40%以上が「たまにしまう」と回答しており、歩行者優先的な思考・態度が窺える。

4. まとめ

本研究で得られた知見を以下に示す。

- 1) 運転免許非保有者は、標識に関する規則の認知度が低く、知らないうちに違反を犯している可能性がある。
- 2) 自転車乗用者の30~40%が、通行区分や一時停止など多くの事故の原因となっている違反を犯しており、さらにこれらの規則を必ず守るべきだと考えているのは約50%であった。今後はこうした意識を改善するための対策を行っていくことが重要である。
- 3) 歩行中は、自転車乗用中に比べて危険意識が低く、それが日頃の行動にも表れている。また、歩行者優先的な思考・態度を窺うことができた。

表-3 交通規則に対する遵守意識(自転車乗用中)

内容	回答者の意識(%)			回答数
	必ず守るべき	どちらともいえない	守らなくてもよい	
メール、LINE	83.7	13.9	2.4	245
通話運転	79.4	16.9	3.6	248
信号	76.9	21.9	1.2	247
傘差し運転	66.4	28.7	4.9	247
見通し利かない交差点徐行	64.4	32.8	2.8	247
反射板	60.6	32.1	7.3	246
急な進路変更	58.1	37.0	4.9	246
歩行者がいる場合、車道側徐行	56.3	39.7	4.0	247
標識 一時停止	51.2	40.7	8.1	246
イヤホン	49.8	41.6	8.6	245
並進	49.6	44.7	5.7	246
自転車横断帯	44.4	46.8	8.9	248
車道側通行	40.2	50.6	9.2	249
手信号	15.4	42.1	42.5	247

表-4 交通規則・危険行為に対する意識(歩行中)

内容	回答者の意識(%)			回答数
	必ず守るべき	どちらともいえない	守らなくてもよい	
泥酔状態での通行	79.2	16.1	4.7	255
飛び出し	78.5	18.4	3.1	261
信号無視	75.2	22.9	1.9	262
メール、LINE	49.4	40.2	10.3	261
通話	40.0	46.9	13.1	260
駐車車両の直前後を通行	32.2	53.3	14.6	261
イヤホン	31.8	47.9	20.3	261

表-5 日頃の行動(自転車乗用中)

内容	回答者の行動(%)			回答数
	いつも守っている	守らないこともある	ほとんど守らない	
傘差し運転	73.3	16.6	10.1	247
通話しながら運転	72.9	24.3	2.8	247
メール、LINE	61.9	34.0	4.0	247
二人乗り	49.8	43.7	6.5	247
歩行者がいる場合、車道側徐行	44.9	46.6	8.5	247
信号	44.0	50.0	6.0	248
イヤホン	43.1	31.3	25.6	246
見通しの利かない交差点徐行	42.0	40.8	17.1	245
自転車横断帯	40.0	47.3	12.7	245
急な進路変更	37.9	55.2	6.9	248
並進	32.4	53.0	14.6	247
車道側通行	30.0	50.6	19.4	247
標識 一時停止	27.1	44.9	27.9	247
手信号	0.8	3.6	95.6	248

表-6 日頃の行動(歩行中)

内容	回答者の行動(%)			回答数
	まったくしない	たまにしまう	よくしてしまう	
飛び出し	69.2	23.8	6.9	260
信号無視	45.0	44.6	10.4	260
車が止まってくれと思って通行	44.4	42.9	12.6	261
通話	36.5	37.3	26.2	260
メール、LINE	26.2	36.2	37.7	260
イヤホン	25.0	30.4	44.6	260
駐車車両の直前後を通行	16.1	58.2	25.7	261